

令和 5年12月6日

昭島市長 白 井 伸 介 様

昭島特定目的会社
取締役 名古屋 秀和
日本GLP株式会社
代表取締役社長 帖佐 義之



GLP昭島プロジェクトに係る交通課題等について (回答)

初冬の候、いよいよご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本年11月24日付昭計地第63号によりいただきました照会に対して、以下、回答申し上げます。

記

1. 歩行者の安全対策

開発計画における搬出入ルートにおいては、片側歩道の道路やガードレール等の交通安全施設が未設置の道路があり、また、開発計画地周辺に小学校や中学校が立地しており、搬出入ルートの道路は、殆どが通学路となっている。

こうした現状から、大型車両等走行車両の大幅な増加は、歩行者の安全性、とりわけ児童・生徒の通学の安全性において、大きな課題があると捉えている。

その対策についての貴社の考えを示されたい。

【回答】

交通安全対策については、弊社としても最重要課題であると認識しており、その対策については、開発事業者としての責もあることを理解したうえで、交通管理者や道路管理者の他、PTA等地域住民の意見も踏まえ、貴市と前向きに協議を行っていきます。また、開発計画地内において、歩行者や自転車安全に通行できる空間を設けたいと考えております。



2. 自転車利用者の安全対策

近年は、「自転車は『車両』であり車道通行が大原則」という考えのもと、安全性の向上を第一に、交通状況等に応じた自転車通行空間の検討が求められている。

また、開発計画における搬出入ルートにおいては、自転車の歩道走行が認められていない箇所がある。

こうした現状から、大型車両等走行車両の大幅な増加は、自転車利用者の安全性において、大きな課題があると捉えている。

その対策についての貴社の考えを示されたい。

【回答】

新設道路については、自転車レーンを設けた計画とします。また、開発計画地内において、歩行者や自転車が安全に通行できる空間を設けたいと考えております。

3. 渋滞の発生抑制対策

開発計画地周辺の道路は、現状でも、時間帯によっては、交通渋滞が発生しており、開発計画による発生車両がもたらす負荷は、大きな課題があると捉えている。

交通負荷の改善に資する交差点の改良のみならず、車両の発生抑制や生活道路の走行を回避したルート設定など十分な対策が必要と考えるが、貴社の考えを示されたい。

【回答】

従業員用のシャトルバスの運行等により発生交通量の抑制に努めたいと考えております。

また、幹線道路を主としたうえで、交通の分散化を図る等により、渋滞の発生抑制に努めます。

なお、交差点の右折レーンの新設や延伸については、状況分析をしっかりと行い、交通管理者及び道路管理者と協議を行っていきます。

4. 周辺道路の保全対策

開発計画地周辺の道路は、大幅に増加する大型車両等の走行への対応が必要になる路線が想定される。

公道ではあるものの、開発計画による発生車両がもたらす負荷は大きい。

こうした状況を踏まえ、周辺道路の保全対策についての貴社の考えを示されたい。

【回答】

開発計画による負荷により道路の改良が必要な場合は、その負担等について、道路管理者と前向きに協議を行います。

5. 施設運用開始後の対策

テナントへの通行ルートの徹底及びドライバーへの交通安全教育の徹底はもとより、状況に応じた課題解決を行うためには、市民や行政と対話・協議を行う場の確保が必要であると考えており、貴社も同様の認識であると理解している。

については、当該協議を行う場の設置に係る協定の締結についての貴社の考えを示されたい。

【回答】

施設稼働時前までには、貴市と協定の締結を行うべく、協定書の内容等について、協議を行っていきます。

6. 市民理解に向けた取組

社会と共生する良き企業市民を目指している貴社においては、開発計画について、市民の理解を得ることが重要であると認識されていると考えるが、不安や心配を抱える市民に対しての貴社の今後の取組について、考えを示されたい。

【回答】

ホームページにより開発計画や問合せ先等の周知を図り、市民が知る機会や意見が言える環境を整えるとともに、要望に応じて個別説明会を設け、理解が得られるよう市民の意見を受け止めた説明に努めます。

以上